

The background of the entire page is a repeating pattern of overlapping circles in various colors including red, orange, yellow, green, blue, and purple. The circles are of different sizes and are scattered across the white background.

ここから始まる第一歩

～千里敬愛幼稚園をより良く知っていただくために～

■子どもファーストで選びたい幼稚園■

皆さんは今、幼稚園を選ぶとされています。そして、何を基準に選ぶとされていますか？

- 近所の友達（特にお母さん同士の友達）が行くから
- 通園バスが近くに来ていたり、通園バスの送迎時間の都合が良いので
- 近いから
- 評判が良いから（人に勧められて）
- 実際に見学して、子ども達が楽しそうだったから
- 幼稚園の雰囲気明るかったから
- 見学して、子ども自身が気に入ったので
- 設備等に満足したから
- 説明会などで話を聞いて
- 上の子が行っていて、園の様子を知っているから
- 延長保育、課外保育、給食などが充実しているから

最終的には、いくつかの基準から選ばれるでしょうが、その基準をしっかりと持たれるのは重要です。

その基準をまず「子どもファースト」は外さないでいただきたいのです。

確かに就園前まで一緒によく遊んでいた子と同じ幼稚園へ行くメリットはあるでしょう。お母さん同士が仲良しなら尚更です。

だったら、是非子どもと一緒にいろんな幼稚園巡りをなさってください。

子どもの感性は意外と的確な判断をする場合が多いのです。

転勤で途中退園され、移転先での幼稚園選びのアドバイスを聞きに来られた際は、次のような点をお伝えしています。

①見学日以外の見学を断る園は リストから外しましょう

幼稚園や保育園だけではなく、教育機関は何故か閉鎖的です。幼稚園や保育園では外部の人が出入りすると子どもが落ち着かないからと断るケースが殆どです。

千里敬愛幼稚園は違います。いつでもお越しください。

子どもは集中していたら保育室外の騒音でも気にならないものです。ましてや少数の見学者がいても決して悪影響はありません。

むしろ、教職員達が「見られる」ことに抵抗感があるからだと推測されます。

②園内に飾られている描画や製作を チェックしましょう

子ども達一人一人の個性を大切にしていると、どの園でも唱っています。でもどの子の絵も似たり寄ったりだったり、学年差が見えなかったら、指導性の強い保育をしている園です。

また、保育室等の「部屋飾り」が保育士の手によるものなら、その園の教育観に問題があると言っても過言ではありません。

この点は次に詳しく説明します。

■楽しいことは再現します■

さて、保護者の方が考えられる幼稚園選びの基準に合った幼稚園が複数園あったとします。その際、やはり教育内容で決めていただきたいと園長は願っています。

ところが、各園のホームページや、入園パンフレットを見てもなかなか教育内容の実態が見えてこないものです。学習塾なら「〇〇高校△△名」などの実績も判断材料になるでしょうが、幼稚園ではそのような数値は小学校受験園以外算出できません。

ホームページの教育理念を見ても、大抵、「健康、情緒、知育」の3本柱を異なった表現で謳っているので、各園の違いが分かりません。

具体的な活動には確かに園の特色を読み取れるでしょう。でも、それが子ども達にとって本当に大切な活動なのかの判断はとても難しいです。

可能なら、「何故その活動をしているのか」と園長先生方に聞かれるのが一番良いでしょうが、なかなか機会はありません。

保護者の方には、たまの行事での子ども達の様子に感動されるでしょうが、ときには行事までの過程で子ども達がどんな思いで活動をしていたかまでの洞察は必ずしも容易ではありません。

でも、次の2点に注目してもらえると、かなりの正確さで子ども達の心境がよみとれます。

①行事の活動が始まったら登園を嫌がる

子どもが登園を嫌がる理由はいくつもあります。でも、行事の活動中に登園を嫌がるなら、その活動そのものが子ども達に歓迎されていないと解釈できます。

それとは反対に

②行事の活動を家でも再現する

このような様子が見られるのなら、行事の活動を子どもはきっと楽しんでるはずですよ。

私の持論はここに尽きます。

行事の活動だけではなく、普段の活動でも子ども達が本当に楽しんでいるのなら、幼稚園での自由遊びでも、放課後の家庭や公園でも子ども達はきっとその活動を再現するはずです。女の子達は担任の真似を家庭でもよくします。その口調も担任を真似て。

でも、入園前では、お子さんを通してこのような様子は見られません。でも、見学して在園児達の様子を見るのは可能です。

できるだけ足を運びましょう。そして先に述べたように、見学日を指定する園は幼稚園選びのリストから外しましょう。

子ども達の様子だけではなく、教員達のことば遣いにも注意してください。園児に対して命令口調や、指示語を多用している園は要注意です。

これについては後ほど説明します。

■達成感と有能感■

では、何故子ども達は幼稚園での活動を家庭等でも再現するのでしょうか？

先に「子ども達は楽しんでいる」から再現すると書きました。

では、「楽しい」と感じるのはどんなときでしょうか？

好きなアニメや玩具で遊んでいるときも子ども達は「楽しい」と感じているはずです。

でも、このような楽しさは「娯楽」としての要素が強いのです。もちろん、アニメを見ている、想像を広げたり、玩具なら遊び方の工夫をするケースも考えられます。

しかし、それだけでは「楽しさ」の本質がひ弱く思われますね。アニメの視聴時間を制限したりするのはそのためでしょう。

では、幼稚園の活動はどうあるべきでしょうか？娯楽性を一切否定するつもりはありません。

ただ、家庭ではできない友達との遊びは娯楽性の強いものでも、友達との関わり方、コミュニケーション能力を高めるために、とても重要だとは考えています。

それでも、自由に子ども達だけで遊ぶ時間だけしかなかったら、気の合う子ども達しか遊ばないのは想像できます。

友達の輪を広げるためには「しかけ」が必要です。その「しかけ」こそが幼児教育ではとても重要なのです。

具体的に説明しましょう。

幼稚園では「生活グループ」と呼んでいるグループがあります。大体5、6名でグループを作ります。

このグループは年に3回、組み替えます。

生活グループでは、一緒に昼食を摂ったり、学年で多少内容は異なりますが、毎日当番を担当してグループ全体のリーダーを務めます。

この生活グループとは別に千里敬愛幼稚園では多くの「協同活動」を最年少児から取り入れています（初期段階では共同活動）。

協同活動では、単に友達の輪を広げるだけではなく、意見を調整したり、友達を讃えたり、逆に讃えられたりします。

その際、子ども達を感じるのが「**達成感**」であり、「**有能感**」です。

達成感や有能感は一人でも感じられます。

でも、例えば、家庭で何かできなかったことができた際、子どもはお母さん達に報告します。「ママ、一人でできたよ」と。

人に伝えることで、できた喜びを増幅させ、同時に有能感を覚えるのです。そこに大勢の友達がいたら、喜びや満足感はより強固になります。

子どもの内にある感情は、その活動を再現し、確かめ、より強固になるのです。

これこそが教育の現場で重要視する「楽しい」なのです。

だから、後ほど述べる、「練習」とは本質的に異なります。

■赤ちゃん返りとお手伝い■

達成感と有能感は子どもだけではなく、我々大人にも重要な感覚です。このふたつの感覚を持つことで「意欲」が生まれるのは大人も子どもも同じです。

折角時間をかけて作った料理に何のコメントもないと寂しいものです。でも、美味しいと言われると次回はもっと手の込んだ料理に挑戦しようとする心理です。

子どもは自分でもできないことが多いと自覚しています。だから「ママ、手伝って」と躊躇なく頼みます。

それだから、できたときの達成感と、「自分でもできるんだ」との有能感を抱き、この感情によって、より積極的に何かに挑戦するのです。

この有能感を利用した子育てで大切なのは「お手伝い」です。幼稚園でも子ども達にお手伝いをよく頼みます。

ここで大切なのが、「先生、助かったよ。ありがとう」の一言です。

有能感は「自分でもできるんだ」だけではなく、「先生のために自分が役立った」との思い、人のために自分の行動が役立ったとの思いこそ真意だと言えます。

無償の愛は親から子どもへ注がれるだけではなく、子ども達は周囲の人達に注ぎ続けているのです。

そこで、このページの意味が明確になります。

下に妹や弟ができると、上の子が赤ちゃん返りをするケースがあります。

今まで自分だけが可愛がられていたのに、その愛情を下の子に奪われたと思うのでしょうか、我が儘になったり、独り立ちができかけていたのに、自分も甘えたくくなります。

そして、何故か赤ちゃん返りは「お姉さん」の専売特許なのです。

「もうお姉ちゃんだから」と注意するのは逆効果です。2歳頃のイヤイヤ期が、やっと終わったのにと、子育ての難しさを覚える人もいるでしょう。

でも、意外にも解決法は簡単です。

是非、お手伝いを頼んでください。ちょっと嫌がっても、何度も頼みましょう。それこそ今までタッブリ愛情を独り占めしてきた子ですから、徹頭徹尾お母さんに逆らうことはこの時期にはありません。

ただし、「ありがとう。お母さん助かったわ」の一言は絶対に忘れないでください。

園でも、何らかの原因で登園を嫌がる子にはいろんな方法で対応しますが、お手伝いを頼むのもひとつの方法です。

でも、決して難しいことを頼まないでください。靴を揃えたり、洗濯物の片付けを一緒にしたりしながら、「さすがお姉ちゃんだね。お母さん助かるわ」などの言葉を添えて、有能感を刺激しましょう。意外と早く赤ちゃん返りは治ります。

■イヤイヤ期は第二の誕生■

年齢的には逆になりましたが、次に2歳頃のイヤイヤ期についてお話ししましょう。

それまで、お母さんの言う通りに行動していた子が急に反抗的になります。親御さんとしては厄介な時期です。

でも心理学では「**第二の誕生**」と言い、子どもにとってはとても大切な時期なのです。

第二の誕生とは「自我のめざめ」です。

子どもが自分の意思を持ち始めます。丁度今、お子さんがその時期だと言われる方も多いでしょう。

良くない思いながらも子どもを叱りつけることが多くなったり、逆に子どもの言いなりになったりと、子育てで最初にやって来る高い壁です。

どんな子でも通らなくてはならない道の解決法として、次のような点があげられます。

1. 子どもの気持ちに寄り添う

子どもの「イヤ」という気持ちを否定せず、受け止めましょう。

「○○したかったんだね」など、気持ちを代弁してあげましょう。

感情的に叱るのではなく、落ち着いて理由を説明しましょう。

2. 選択肢を与える

「AとBどちらにする？」など、選択肢を与え、子どもに自分で選ばせましょう。

自分で選んだという満足感で、スムーズに行動してくれることが多いです。

3. スキンシップを心がける

抱きしめたり、手を握ったり、頭をなでたり、スキンシップをすることで、子どもは安心できます。

4. 褒める

できたことを褒め、自信をつけさせましょう。

5. 見守る

ある程度、やりたいようにさせてあげましょう。

子どものペースに合わせて、見守る姿勢が大切です。

6. 休息を取る

親も子どもも疲れてしまったら、一旦距離を置くことも有効です。

短時間でも、休憩することで気分転換になります。

以上はネットで書かれている内容です。

どれも頭では分かっているけど毎日子どもと接していると実行が困難なときも多いですね。でももっと有効な方法があります。

それは同年齢の子ども達との生活です。

子どもには「成長動機」が備わっています。年長者への憧れと共に、同年齢の子ども達間での刺激がそれです。ヒーローものやプリンセスものが好きなのは年長者への憧れであり、公園などで同じような年齢の子に関心を向けるのは同年齢の子どもからの刺激です。

次に千里敬愛幼稚園の2歳児教育についてお話ししましょう。

■千里敬愛幼稚園の2歳児教育の変遷■

40年ほど前から、ある保育園で2歳児の発表会活動の指導に伺っていました。当時、千里敬愛幼稚園はまだ2年保育だけでした。もちろん私の2歳児教育についての知識も経験も乏しく、現場の保育士さんの意見を聞きながら文字通り手探りの指導でした。

平成になって、ようやく千里敬愛幼稚園でも3歳児（年少）を受け入れられる余地ができ、その保育園でも千里敬愛幼稚園で実際に行なった発表会活動（千里敬愛幼稚園の発表会は独特です。のちほど詳しく説明します）を翌年取り上げていただきました。

するとどうでしょう。2歳児でも発表会を経験しているその園の年少児の方が、千里敬愛幼稚園の年少児の子ども達より素晴らしい表現ができていたのです。2歳児の表現も予想以上のものでした。

プレスクールでも良いから早く2歳児教室を開きたいとの願いは空き教室ができない限り叶いませんでした。

ようやく1教室が空きそうになった平成21年に週2回の2歳児教室をスタートできました。

当時他園の2歳児教室は親子登園が主流でしたが、最初から子ども達の単独登園で始めたのは先に説明した2歳児の特性を考慮したからです。

自我がめばえるイヤイヤ期は母子分離の最初の段階です。それなのにイヤイヤビームの

標的であるお母さんと一緒に登園なら、一人歩きをしたくて仕方がない「成長動機」を最初から奪うことになると思ったからです。

それに先のイヤイヤ期の子どもとの接し方をお母さん一人に任せるのではなく、同年齢の子ども達の力も借りながら、幼稚園が分担する方がより効率的だと考えました。

初年度のあるお母さんの言葉は忘れられません。その子は1ヶ月遅れで2歳児クラスに入園し、その2回目の登園日でした。

「今まで何度注意しても手づかみで食事をしていたのが、急にスプーンを使うようになったのです」と嬉しそうに、また驚きをもって話してくれました。

これが同年齢の子どもから受けた刺激に他なりません。

翌年から、もう1教室余裕ができたので、9月時点で満3歳になる子ども達を対象に1学期からのプレスクールの延長として毎日登園のクラスをスタートさせました。

決して早期教育としての2歳児教育ではなく、乳幼児の成長段階で避けて通れないイヤイヤ期だからこそ、2歳児教育が必要だとの思いをここで強調しておきます。

次からは千里敬愛幼稚園の教育についてお話しします。

■子どもを育てる3つの目■

これは副園長時代に当園の教員達の指導方法に問題があった際にメモした内容から帰納的に導き出したもので、千里敬愛幼稚園の教育の原点であり、2歳児教育でも共通しています。

その3つの目とは

・みとめ ・ひかえめ ・けじめ

です。

ではもう少し説明します。

①みとめ

イヤイヤ期の子どもの接し方のひとつにもありましたが、年齢に関係なく「認められる」と嬉しいものです。

周囲から認められてこそ、達成感、有能感を持ち、次のステップへ挑戦しようとする意欲も生まれます。

ただ、認めも、単に認印を押すような無感情な認めではなく、「共感」することが大切です。共感とは、子どもの感情や経験を理解して寄り添う能力と定義されています。

②ひかえめ

子ども達の成長は凄まじいものがあります。

イヤイヤ期、それまでできなかったことに手を貸そうとすると拒絶する場合があります。もう出来るんだからとの意思表示です。

幼稚園全体で見ても、最年少、年少、年中、年長と学年が上がる毎に、それまでの経験活動からいろんなことができるようになっていきます。それを無視して子ども達に教えようとすると子ども達は退屈がったり意欲を削がれたりします。

すなわち、ここでの「ひかえめ」とは、子ども達のアドバイスや手助けを、子どもの成長に合わせて少なくすることです。

そう、「そんなこと分かっているよ、お母さん」と言われないように。

別の言い方をすると、子どもにとって不必要な手助け等は子どもから有能感を奪うことになります。

私たちは2歳児（最年少）でも子ども達が喜んで出来ることは何かを探りながら、手助けを少しずつ（勿論個人差も充分把握して）控えめにします。

③けじめ

これは他の「目」とは多少違うと思われるでしょうが、どうしても外せない「目」です。

子どもは道徳心がないと言われています。ときに大人では言わないような、相手に対して辛辣なことばを投げかけるのもそのためです。

道徳は社会通念上にあるもので、幼い子ども達は経験上知らなくて当然です。なので教えてあげる「しつけ」としてのけじめは幼児教育でも家庭教育でも大切です。

ただ、教育現場では他のけじめもあります。

それは子ども達が興味を失ったり、あるいはその延長線上で私語が増えているのに指導を続けている状態を「けじめのない保育」と戒めます。子どもの関心と指導者の思いが一致していたら「けじめのある」教育なのです。

次は子どもをダメにする3つのコリゴリです。

■子どもをダメにする3つのコリゴリ■

これも副園長時代に、当園の教員達の指導方法に問題があった際にメモ書きした中から集めたものですが、コリゴリは本当に沢山あって3つを選ぶのに苦労しました。

・おごり ・あせり ・むりやり

①おごり

私はあなた方の指導者です。

こんな態度で保育をしていたのでは、今の時代パワハラにさえなってしまう。

もちろん、先にも述べたように子どもには十分な道徳観が育っていないので、ときとして教師としての毅然とした態度で臨まなくてはなりません。

しかし、なぜそのような状態になったかは反省すべきです。

保護者の方にも重要なポイントです。

親として一方的に叱っているのは「おごり」が見え隠れします。

イヤイヤ期の対応と同じで、やはり相手の人格を認めつつ、何故ダメなのかを説明できるだけの余裕があれば良いのですが、「私は親だから」が親の責任感ではなく、親としての「おごり」であるなら、第2反抗期に親子の軋轢に発展しかねません。

②あせり

育児書に「何歳までにこれができるようになる」と書かれているだけで焦ってしまいます。

日常の些細な場面、たとえば急いでいると

きに子どもが愚図るとそれだけでも焦ってしまいます。

教育現場では多少違う焦りが見られます。

最も多いケースは行事前でしょう。

「他のクラスはそこまで出来ているのに、うちのクラスはまだここまで」など、活動の進捗状況からくる焦りです。

ベテラン教師と新人教師では実力差が進捗状況に影響するでしょう。

これを解決するには2つの方法があります。

まず、**行事そのものの見直し**。

そして、**教師間の実力差を埋めるためのサポート体制の改善**です。

では家庭教育ではどうでしょうか？

子どもの成長曲線は必ずしも同じではありません。**子どもの良い点を伸ばしてあげることが最優先**するという姿勢が、焦りからの脱却法だと考えています。

③むりやり

これはもうパワハラ以外の何ものでもありません。子どもが嫌いなものを無理矢理食べさせたり、行事の活動を嫌がっているのに無理矢理させていたのでは、教育そのものが凶器になります。

子どもの成長段階を見極めて、やろうとする気持ちを高める工夫をするだけでも無理矢理はなくなり、意欲的な挑戦へと変化できます。

これらのコリゴリを排除してこそ、真の「子どものための教育」だと考えています。

■子どもにとっては「毎日が運動会」■

では、ここから暫くは行事を中心に千里敬愛幼稚園の保育を説明します。まずは運動会。

運動会は三大大行事と言われている、製作展、発表会の中でも各園は力を入れている行事と言えるかもしれません。

入職当時、まず最初に改めたのが運動会でした。

①入職前までは他の幼稚園の運動会のように、年長は組み体操、年中はお遊戯的なものを見せていました（鼓隊は子ども達の負担が大きすぎると開園後数年で止めたのは懸命です）。

②今よりも遙かに園児数が多かったのにもかかわらず、運動会は一日で済ませていたので、トラック周辺は保護者がぎっしりで、子ども達は保育室などに待機していて、出番のときだけ入退場門から出入りしていました。

今もこのような運動会をされている園はあるはずですが、上記2点にとっても疑問を持ちました。

特に①は運動会後のあるベテラン教師の一言が胸に刺さりました。

『運動会が終わったら声がこんなに嘎れるんです』

運動会当日までの組み体操の指導時に大声をあげていたのを私は知っていたので、自慢気にも聞こえるこの一言で次年度からの改革を考え始めました。

「行事は日常保育の通過点でなくてはなら

ない」と言われていながら、当時の運動会は当日の「見栄え」ばかりに囚われ、子ども達を叱りながら練習を繰り返します。しかも指導者は概ね心配性が多く、たとえ完成していても更なる練習を要求するものです。

運動会が終わったら教師も子ども達も再度組み体操やお遊戯をしたいと思わないのも当然です。

場所の問題は運動会を二日に分けることで解決しました。また当日、子ども達はトラック周辺に陣取り、その後ろを保護者席に改めました。入退場門を廃止し、出番のときは席から直接出てきます。

組み体操やお遊戯は廃止し、スポーツの醍醐味である競技を学年毎にいろいろ工夫しました。その中でもリレーは千里敬愛幼稚園独自の年齢を充分考慮した内容です。今は最年少から始めています。

だから子ども達は、運動会の練習ではなく、「**毎日が運動会**」と認識しています。

多少の変遷を経て、現在は学年の縦割りで行なう運動会の後（このときは紅白対抗）、学年毎のクラス対抗運動会を開催したり、リレーに関しては2学期後半、3学期に学年毎にリレー大会を行ない、「行事は日常保育の通過点」になったと確信しています。

年長は卒園式の前日にもミニリレー大会を行ないます。

それについて書かれたあるお母さんのメールを次に紹介します。

■リレーはドラマ■

卒園式前夜にいただいたメールです。

明日卒園する年長男児の母です。

わが子は、第一子早生まれののんびりマイペース君です。

数多くの年長のリレー大会、はっきり言って、なぜそこまでする必要があるのか…疑問に感じてたのが正直なところ。

強いクラスでの遅い子の母親の心情はかなり複雑でした。

今朝、家を出るときも、「トップとアンカーだけはヤメといてね…」と話していたにも関わらず、最後の最後にアンカーのタスキ姿を見たときは眩暈がしました。

だけでも一生懸命走る姿は可愛く頼もしく…。

家に帰っても、責めることはしないと決心したのですが…色々なやりとりからつつい…。

寝る前の会話での、子どもの一言があまりにも衝撃で、園長先生にメールをしました。

「僕、走るの苦手やけど好きやねん」

そうなんですよ。

子どもより他の人の目ばかりを気にしていたちっぽけな母親より、よっぽど大きい我が子。

いつの間にこんなに成長したんだろう…。

嬉し涙と反省の涙が混ざっています。

短いメールからいろんなドラマが見えてきます。

リレーのチームは大会毎に組み替え、走る順番は100%子ども達に任せます。大会前にも何度か走りますが、その都度「作戦会議」と称して走る順番を入れ替えます。

足の遅い子がいたら、それまでに差を広げるために速い子を先に走らせたり、逆に最後にと、頭を突き合わせて協議する子ども達を担任は見守ります。

卒園式前日のリレー大会で、この子が自分からアンカーを志願したのか、他の子が、今まで一度もアンカーをしたことのないこの子を氣遣ったのかは分かりませんが、お母さんの文面から、最後に抜かされたようです。

「僕、走るの苦手やけど好きやねん」

なかなか言えることばではありません。

この子は友達よりも足が遅いことを自覚しながらも、これまでチームで、クラスで、勝敗の嬉しさ、悔しさを共有する経験をしているからこそ、このようなことばが出て、お母さんから、「トップとアンカーだけはヤメてね」と言われながらもアンカーで走ったのです。

「楽しいから好き」の千里敬愛幼稚園が掲げる教育目標がこの子にもしっかり伝わっているのだと、園長として嬉しく拝読しました。

次は造形遊びや描画活動について説明します。

■これ、誰が作ったの？■

実際に千里敬愛幼稚園であった話です。

当時（約40年前）は各クラスの担任が前もってテーマを決め、保育室いっぱいに製作物を飾り立てていました。例えば、遊園地、デパート、大阪の町などです。

完成までの間、子ども達は担任から、「次はこれを作ってね」と、言われるままに作る下請け工場のようなものでした。

あるクラスの担任は、密かに子ども達に作らせていた製作物を製作展前日に一気に飾り始めたそうです。

行事が担任達のライバル心で進められ、子どもの思いなど置き去りにされている悲しい事実でした。

また、ある年の反省会で、一人の担任が、「テーマと関係のないものを作り始めた子がいたけど、どう対応したら良いか分からなかった」と言ったことに、数週間製作している間、ずっと担任の指示通りの下請け作業をさせられている子ども達の思いはどうなんだろうと考え始めました。

自分が作ったものを、飾り付けるまで文字通り、担任に取り上げられます。

出来上がったら子ども達は、それで遊べたがらないのかとの疑問も残ります。

それに、「これ本当に子どもが作ったの？」と疑いたくなる作品も紛れ込んでいます。

当時、「作る→遊ぶ→作る」を子ども達は繰り返すと聞いていました。

だったら飾るだけの製作展って意味があ

るのだろうか、とも。

そこで段ボール箱や家庭で出る様々な食品容器などを集めて、作るテーマも子ども達からの意見をとりまとめ、いくつかのテーマ（基本店屋が多かったです）に絞って、子ども達がどのテーマで作りたいか選択できるようにしました。中にはテーマを渡り歩く子もいましたが、それはそれで認めました。

初期の頃は子ども達に主導権を委ねすぎ、まとまりのない作品群になり、途中から担任が主導することもありましたが、反省を積み重ね、どのタイミングでどんな材料を出せば子ども達の活動が展開するかが分かってきました。

ところがある年、当時描画指導でお越しいただいていた先生から、「年長と年中の違いが分からないね」との指摘を受けました。

丁度その頃、大型ダンボール箱の入手が困難になっていたこともあり、全園児が1学期に木片での木工遊びを経験しているので、年長にはベニア板や木片を大量に準備しての活動に変更しました。

子ども達は家庭でも段ボール箱で遊んだり、空き箱等を捨てようとする、「それは幼稚園に持って行くから捨てないで」と言うこの時期は製作に没頭する子も多いようです。

続いて描画活動について説明します。

■自由画帳 vs 絵手紙■

突然の対決で何事かと思われるでしょう。

園によれば子ども達に自由画帳を持たせています。文字通り、自由時間などに好きなものを描くための画帳です。

千里敬愛幼稚園では自由画帳を使っています。その代わり描画活動として年間かなりの枚数を描いています。

そして、10年以上教員の指導のためにお越しいただいていた西光寺亨先生（元兵庫教育大名誉教授）から、ひとつの提案をいただきました。正直、担任達の負担増になりそうで、すぐに導入しなかったのですが、西光寺先生のお話を聞き続けると、幼児の描画活動だけではなく、他に取り組んでいる身体表現活動や言語活動、いえ、保育の根底で必要なことを先生がおっしゃっていると気づき、2年目から取り入れました。

それが絵手紙です。

1週間～10日に1度、A6サイズの紙に、「今、一番好きな遊びは？」「どんなケーキが好き？」など、身近なテーマを子ども達に投げかけます。

絵手紙活動はここからが重要です。

描いた絵を見ながら、子どもと担任が話をします。その内容を担任が短くメモ書きします。

そうなんです。絵手紙は絵を通して子ども達と担任のコミュニケーションを育てる役割を果たしているのです。

子ども達と担任との間でしっかりコミュニケーションが取れ、信頼関係ができた上での描画活動でなければ、結局どんな綺麗事を

言っても作品主義になってしまうと西光寺先生はおっしゃったのです。

ここが自由画帳との違いです。

自由画帳に絵を描いても、基本誰かにみってもらうものではないと子ども自身も感じているかもしれません。担任や親に見せてコメントをもらう場合もあるでしょう。

でも、名前の通り、自由に描くだけですから、描きたくない子は描かないし、同じような絵ばかりを描くなど、教育活動としては成立していると言い難いです。

絵手紙は保育時間にクラス全員で取り組みます。普通の描画活動時ではあまり時間をかけられない絵を挟んでの、**子どもと教師の会話**を重視します。

また、「今度、公園で何をして遊びたい？」など、なかなか形にできないテーマでも、子どもは自分の能力を駆使して、あたかも充分話せない年齢でも必死に言語で伝えようとするかのように、線描きで表現してくれ、充分描けない部分は言葉で伝えます。

西光寺先生からの提案で、月に1回、その絵手紙を家庭に持ち帰り、今度はお母さんとその絵を挟んで会話した内容を書いてもらっています。

絵手紙は年度最後にファイリングしてお渡しします。

■色から形への描画活動■

西光寺先生のご指導を受ける前の話です。

当時はまだ3年保育だけでした。その年少児のクラスでの出来事です。

その頃は、年少児は複数色の使い分けができないからと、お母さんの顔の絵もピンク色一色の絵の具で描かせていました。

ある子は、かなり上手に目鼻も掛けていました。ところが次の瞬間、その子は描けているお母さんの顔をピンクの絵の具で塗りつぶしたのです。

同じようなことを他園の先生から聞きました。上手に描けているのに、上から塗りつぶしてしまう子がいるので、その子から作品を取り上げるタイミングが難しい、と。

疑問です。なぜこの子達は塗りつぶしてしまうのだろうかと考えました。

もし、そこに肌色があったら、先の子は目鼻を避けて肌色を塗っていたかもしれないと、自分なりの結論に達しました。

当時は、ピンクでお母さんの顔、青色でお父さんの顔を描いていたのにも疑問を感じました。

そんな色の顔をしている人はどこにもいません。指導者の押しつけ以外の何ものでもありません。

西光寺先生が亡くなられたので指導者を失いましたが、幸いにも身体表現、言語、音楽をそれぞれの分野の先生に直接指導を受けて、子ども達のみならず、他園の先生方にも指導をしていた経験と、西光寺先生

のお話を元に、当時すでに関東や九州に同じ志の園との勉強会を行っていたので、それらの園でも実践してもらいながら、独自の描画理論を編み出しました。

そのひとつが「色から形へ」です。

幼児の描画の場合、大人は「形になっているか、いないか」を気にして、形が描けるようになる指導をしていました。

でも、認知発達の教材を操作している子ども達を見ると、形よりも色にまず着目しているのに気付きました。

顔を一色で描かしていた頃の失敗はたくさんありません。

そこで、2色の色の使い分けで形を整えられないか、仲間の園と一緒に考えました。失敗も山ほどしました。でも、いつかのテーマで、初めて絵の具を使う子さえ、塗りたくってしまうのではなく、2色を使い分けながら、予想以上の作品ができました。

この試みは年少からスタートし、最年少を経験している年少児が多くなったので、現在、絵の具の色を増やして、消防自動車、樹木、新幹線、マーガレットなど、特徴的な色があるテーマで描きます。

年少から子ども達も塗りたくってしまう子は極端に少なくなりました。

では2歳児は？色は重要です。でも、絵の具筆では年少のようにうまくいきません。

それについては次のページで説明します。

■多彩な材料用具での描画活動■

家庭で子どもが絵を描きたいと言ったとき、どんな画材を与えますか？

クレパス、クレヨンでしょうか？

フェルトペンは汚れが気になってなかなか使わせられませんね。

手の力が弱い子のために、描きやすいパス系の商品もあります。それでも面で塗り込む、たとえば塗り絵のような活動は2, 3歳児の子どもには無理があります。

すなわち、低年齢の子ども達にとってパスは線を描く道具にすぎません。

事実、幼児画の発達段階を示す作品のすべてはパス画やフェルトペン画であり、線で描く際の発達段階のみが語られています。

すなわち「形」をどのように捉えているかの考察にすぎません。色に関する考察は一切ありません。

年少児の実践で、子ども達は色によって形が整えられるのが証明されたのだから、2歳児にも同じアプローチができないかと考えました。

幼児画の発達段階でも、1, 2歳児は線描の前に点描、すなわちパスをトントンと叩くような点描が現れるとあるので、それを絵の具で経験できないかと考え始めました。



試しに行なったのが「タンポ」を使った活動です。

気をつけたのは、綺麗な色調でした。2, 3色を、文字通り、心の赴くままにトントンと叩くことで、描画作品を作るというより、感触と色の美しさを楽しむことから始めました。

子ども達の集中力は想像以上でした。楽しいからこそその結果です。

タンポを筆のように使って線を描くようになったら、絵筆の登場です。

家庭では絵の具はなかなか使えないですが、パスやフェルトペンより子ども達は嬉々として取り組んでくれます。

千里敬愛幼稚園では、年中の後半から「個人持ち絵の具」を使います。また、墨やコンテというクレパスよりも柔らかい画材も最年少児から用います。

画用紙も、新聞紙半面程度の「四つ切り」というサイズを使います。多くの園では四つ切りの半分のサイズ、八つ切りを使っています。どちらがダイナミックな作品になるかは明白です。

画用紙の色も白だけではなく、そのときのテーマに合った様々な色を用いて、子ども達がより楽しんで描けるように配慮します。

ホームページでは千里敬愛幼稚園だけではなく、勉強会仲間の園の作品も紹介しているので、是非ご覧ください。

■ユニークすぎる？発表会■

皆さんが子どもの頃の発表会はどのようなものでしたか？私の子どもの頃は、発表会の名前もなく、お遊戯会と呼ばれていて、衣装やお面をつけて曲に合わせて踊ったものです。現在でもこのような発表会を継続されている園もあります。

運動会同様、もしかしたらそれ以上に繰り返しの練習が必要となる発表会が、一体誰のために行なうのか疑問です。セリフ劇の場合、家で覚えるように宿題まで出る始末です。

それに、主役と脇役が歴然と分かれている活動に、どうして子ども達が積極的に取り組めるでしょうか？保護者の方の不満も配役ですね。

千里敬愛幼稚園では文字通り全員が主役です。いえ、主役だけではなく、仇役になったり、作品の登場人物を何役もこなします。

しかも、Aの役をAの子ども達だけで表現を考えるのではなく、クラス全体でも考えます。だから、作品が完成する頃には、どの役も身に染み込んでいるのです。

低年齢の子ども達は家族を巻き込んで遊んでいるとの話も良く聞きます。配役も子どもが家族に指示したり。

逆に年長児になると、当日まで秘密だと家族の前では一切行なわず、一人部屋で行なっている子も多いようです。

発表会後すぐに行なうミニミニ発表会では、役替えをしたものを見てもらいます。役を替えての活動は保育室で1、2度するだけでも、当日のように躊躇なく別の役もこなします。勿論、保護者の方にも見ていただきます。当日とは別の役での子ども達を見ていただけます。

しかも、それだけでは終わりません。

講堂が使える日は講堂で、使えない日は保育室で、いろんなパターン、すなわち同じ年齢のクラス同士とか、別の学年とかでの見せ合いっこをして、いろんな発表を楽しみます。

年長児の発表を見て、憧れにつながり、下の子の発表を見て、可愛いと口ずさんだりします。

2月の発表会当日後、一体何度この見せ合いっこをしているのでしょうか？年長児の卒園式の前日の最後も保護者の方を招いて、保育室で行ないます。

※ちなみに千里敬愛幼稚園では卒園式のリハーサルは行ないません。そして、卒園式前日の最後の発表会の前は、最後のリレーです。

4月、進級児からの質問が、「〇〇組の発表会は何？」と言うのも極々当たり前なほど、千里敬愛幼稚園の子ども達にとって、発表会は心に残る活動なのです。卒園後も発表会のビデオを見て楽しんでいるようです。

■保護者の方も通いたくなる幼稚園をめざして■

ホームページにも幼稚園のキャッチコピーとして、「楽しいから好き！を合い言葉に、保護者の方も通いたくなる幼稚園を目指して」と書いてある通り、千里敬愛幼稚園は保護者の方にも門扉を広く開けています（実際の門扉はオートロックで施錠）。

まず、参観が多いこと。ホームページに年間計画表をアップしてあるのでご覧ください。そこに書かれているだけでも多いのに、ある保護者の方が名付けてくださった「ゲリラ参観」なるものが年間計画表以外にも多くあります。何故、そんなに参観が多いのでしょうか？

子ども達の様子を見ていて、「保護者の方にも見てもらいたい」と思うと、それがゲリラ参観になります。

千里敬愛幼稚園のホームページは毎日数多くの写真をアップしています。ときには動画も。でも、やはり実際にご覧いただく方が子ども達の様子がよく分かります。

仕事をお持ちのお母さんは以前からおられました。参観が多いと負担に思われるかもしれませんが、少ないとその日に行けなかったら見られる機会は極端に減ります。都合がつけばお越しになれば良いのです。

参観そのものの概念も違います。先に述べたように、「保護者の方にも見てもらいたい」との園長の思いが底辺にあります。

園長になる前、千里敬愛幼稚園に入職した際の頃は、「千里敬愛幼稚園の保育はこんなに素晴らしいです」と教育内容を自慢気に見てもらおうと参観を準備しました。

でも今は違います。子ども達の成長を見て、保護者の方が感動してもらえる、見に来て良かったと思ってもらいたいのです。

かなり以前、ある方が、「今、他の幼稚園に通っているけど、あまり楽しそうじゃないので転園を考えている」とおっしゃったので、「園でのお子さんの様子はどうなのですか？」と尋ねると、「そう言われてみれば幼稚園に行くことは殆どないので、園での子ども様子は良くわからない」との返答でした。

参観だけではなく、平成元年度に解体したPTAの代わりに、いろんな面でお手伝いをいただきながら、子ども達と直接触れ合える機会も多く設けています。

2歳、3歳、4歳、5歳、6歳とダイナミックに成長する子ども達の、今しかない幼稚園時代を少しでも見逃したくないと、きっと思われているはずです。

子育ての「楽しさ」を幼稚園でも味わってください。家庭とは違う一面にも会えるかもしれません。

楽しいから好き！は子ども達だけではなく、保護者の方にも感じていただきたいのです。

■感染症対策■

コロナ禍で余儀なくされた休園時期、どんな対策が可能なのか調べに調べました。

コロナだけではなく、インフルエンザも毎年猛威を振ります。

もし、近くに感染者がいたとしても、すぐに感染するのではなく、飛沫と共にウイルスが空中に飛び、何らかの要因で体内に入って感染します。

そのウイルスを不活性化させたり、排除すると感染リスクは低下すると聞きます。

●光触媒

そのために、まず導入したのが光触媒です。

千里敬愛幼稚園では、コロナ以前からインフルエンザ対策として、保育室をはじめ、トイレや階段室、それに全ての通園バスに光触媒のコーティングを施しています。

空気中に排出されたウイルスは光触媒でコーティングした部分にぶつかると不活性化します。

実際、インフルエンザに関しては周辺の学校や幼稚園、保育園で学級閉鎖等になっても、千里敬愛幼稚園での感染の広がりには驚異的に抑えられています。

光触媒はインフルエンザだけではなく、新型コロナウイルスにも有効だとの検査結果も出ました。

でも、それだけでは、目に見えないウイルスを相手に心許ないので、コロナ禍中に

可能な限りの対応をし、今もあらゆる感染症から子ども達を守るための対応を行っています。

●低濃度オゾン発生器

オゾンの殺菌効果はとても高いものの、人体には有害なので、人体にも優しいマクセル社の低濃度オゾン除菌消臭器の業務用を全ての保育室や講堂、3階和室に設置しました。

●全熱交換器（換気）

ダイキン社の業務用全熱交換器（ベンティエール）も全ての保育室や講堂、職員室、3階和室に設置しました。

たとえ、光触媒でウイルスを不活性化できても、ウイルスが空気中を浮遊する時間はあります。

換気が重要なことはコロナ禍中叫ばれていました。

全熱交換器は室内の温度を保ちつつ、強制的に室内の空気を入れ換える機器です。

●光触媒液と電解水による消毒

光触媒液をトイレや出入り口のドアノブや玩具の消毒に週末散布しています。

この液はノロウイルスにも効果的だと証明されています。

また、食品の消毒にも使われているホシザキ社の電解水を食事前のテーブル拭きに使っています。

■預かり保育■

千里敬愛幼稚園の預かり保育は、保育園や認定こども園ほど長時間ではありません。

朝 8 時から夕方 6 時までです。

保育時間を入れると 10 時間なので、保育園やこども園の 11 時間より短いです。

それでも就労されている方が多く利用されています。職場と幼稚園の距離にも関係しますが、パートではなくフルで勤務されている方も多いです。

通常保育の放課後は預かり保育専任者が一定時間保育をします。

この担当者の多くは千里敬愛幼稚園の園児の保護者や元保護者で、幼稚園教諭としての経験もあります。ご自分のお子さんを通して千里敬愛幼稚園の保育の考え方にも精通されているので、単に子ども達を見守るだけの預かり保育ではなく、一定時間保育をしてもらっていますし、子ども達への接し方も他の教員達と差がありません。

また、放課後、その月の活動の一部を預かり保育の子ども達に参加してもらって教員達の研修も行なっています。実際に子ども達の反応を見ながら活動内容の修正を行なう場合もあり、教員達にとっても有意義な研修です。

長期休暇の預かり保育も 2023 年度から実施しています。実施のきっかけにはひとつのドラマがありました。

2022 年度末、当時最年少だった園児が、

お母さんの就労のため転園を伝えると頑なに拒んだそうです。そのため、長期休暇中、預けられる可能性をいろいろ調べられても適当な方法がなく、仕方なく転園を決めました。

その話が伝わった際、最年少児でさえも、そこまで千里敬愛幼稚園を楽しんでくれたのに、園の運営体制のために転園を強いられることに心が痛みました。

長期休暇中、預かり保育を実施していないのは、教員達の有給休暇消化が大前提でした。普段は保育があるので有給休暇が取れない職場です。だから長期休暇にまとめて取れるようにしていました。

長期休暇中に預かり保育を実施したら、果たして有給休暇を消化できるのか、現場に尋ねると、当番制で出勤すれば充分有給休暇も取れるとの返答だったので、すぐに保護者にも通知しました。

その子も退園しなくて済み、年少に進級できました。

長期休暇中の預かり保育は教員達が担当し、午前中は全学年保育を行なっています。ここでも単に子ども達を預かるだけではなく、長期休暇中のカリキュラムに沿っての教育を実施しています。

子どもを預かってもらえたら良いでは子どもの成長に欠かせない多くのことを切り捨てる結果になる危険性も無視できません。

■ご質問にお答えします■

●通園バスの停留所や運行時間について

- ◆現行のバス停には来年度も停まります。
- ◆バス停の新設も条件によれば可能なのでお問い合わせください。
- ◆バス運行時間は一年間を通して同じです。変更すると習い事や勤務時間に影響が出るためです。
- ◆年度によれば運行経路、時間が変更になりますが、朝 8 時から 9 時半までの運行は厳守します。

●クラス編成について

クラス編成の際、男女数、誕生月を基本に行ないます。地区別、通園バス毎の編成ではありません。

なお、原則最年少児のみ、同じクラスをご希望の方は 3 月の一日入園日までにお申し出ください。

●給食について

2025 年度から給食を毎日実施しています。就労されている方が増えているのと、教員の大半が既婚者にあることと、2024 年度からの業者がアレルギー食の代替え食に対応してくれるようになったからです。

なお、長期休暇中も毎日給食を用意します。ただし、アレルギー対応はできないので弁当持参をお願いしています。

●食物アレルギーについて

給食会社から毎年年度当初に質問票をお渡しします。お母さんの判断ではなく、医

療機関での診断が必要です。詳細は直接お問い合わせください。

●投薬について

園で対応はしますが、必ず事前にお申し出ください。場合によれば同意書をご提出いただく場合があります。

●預り保育の臨時使用について

預り保育は原則就労されている方のみ可能です。ただし、やむ得ない事情のある場合は当日でもお受けしますので、必ず電話でお申し出ください。

●療育施設との並行通園について

放課後、療育施設からの迎えで施設に通う子ども達もいますし、週のうち、1、2 回全日通っている子もいます。

事前にお申し出ください。

●園内での撮影について

年間行事表でお知らせしてある日の撮影は写真、動画とも許可しますが、それ以外の参観時にはお断りしています。

なお、公式時の参観でも**室内でのスマホの使用はお断り**しています。スマホでの撮影時は子ども達から皆さんの表情が見えなくなるからです。

※ 4 月入園式直後に個人面談があります。個人的な要望等があればその際に可能です。

■是非千里敬愛幼稚園のホームページを訪問してください。
くったくのない子ども達の笑顔にも沢山出会えます・



■どんなことでも結構です。
園長が直接ご質問にお答えします。
お答えできない場合は事務からお返事します。



◆メ モ◆

